

市川市立福栄中学校 令和7年度 学習の指針

教科	国語科	学年	2年
----	-----	----	----

1. 学習の目標

国語で「理解し表現する資質・能力の育成」を通し、「自主・自立」の姿勢を伸ばすと同時に、定着を図る。
 考えや心情を読み取る力や語彙を身に着ければ自分の考えを正確に伝えることができる。その能力を生かすことで、問題を自力で解決する事ができ、「自主・自立」の達成に繋がる。

① 何を理解しているか、何ができるか →国語による理解力や表現力を育成し、伝え合う力、豊かな言語感覚を養うために、系統的な学習を意図して教材の目標やねらいを明確にし、言葉による見方・考え方をはたらかせて、生徒が自ら学び、自ら考える力を身につける。

② 理解していること・できることをどう使うか →「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において、多様な話題・内容を取り上げた学習の中で自ら「問い」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝え合う能力を育成する。

2. 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・虹の足・質問する力をつける・タオル ・文法の小窓1 活用のない自立語 ・新聞の投書を書く ・漢字の広場1 まちがえやすい漢字 ・日本の花火の楽しみ・水の山 富士山 ・説得力のある提案をする ・言葉の小窓1 敬語 ・構成を明確にして手紙を書く・夢を跳ぶ ・言葉の小窓2 話し言葉と書き言葉 ・観点を明確にして伝える ・SNSから自由になるために／脚本で動きを説明する ・漢字の広場2 漢字の成り立ち 	<p>【詩】・抽象的な意味を表す語句の量を増す。話や文章の中で使うことをとおし、語感を磨き語彙を豊かにする。詩の中で使われている、表現技法に注目する。</p> <p>【表現】・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の心情などを捉えている。</p> <p>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、自分の考えやその根拠を明確にし、文章の構成や展開を工夫している。</p> <p>【文法・語句】・活用のない自立語について理解を深めている。</p>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な未来を創るために —— 不平等のない社会を考える／「ここにいる」を言う意味 ・紙の建築 ・根拠をもとに意見文を書く ・文法の小窓2 活用のある自立語 ・敦盛の最期 ・随筆の味わい ・随筆の味わい 二千五百年前からのメッセージ ・坊っちゃん・短歌の味わい・夏の葬列 ・映像作品の表現を考える ・漢字の広場3 漢字の多義性 ・ガイアの知性・記事を書く ・相違点を明確にして聞く 	<p>【表現】・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。</p> <p>【知識・技能】・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、内容を理解している。歴史的仮名遣いなど、古典の知識を捉えている。</p> <p>【文法・語句】・活用のある自立語について理解を深めている。</p>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ力・よりよい結論を導く討論をする ・文法の小窓3 付属語のいろいろ ・豚・走れメロス ・言葉の小窓3 類義語・対義語・多義語・同音語 ・「連作ショートショート」を書く ・漢字の広場4 同音の漢字 	<p>【知識・技能】・助詞や助動詞などのはたらきについて理解を深めている。</p> <p>・語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>【表現】・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。</p>

3. 評価

(1) 内容および方法

	評価の内容	評価の方法
①知識・技能	・学習内容をどれだけ理解できているか ・理解したことを活用できるか。	定期試験 授業内で行う小テスト
②思考・判断・表現	・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して、自ら「問い」をもち、課題を発見し、考え、表現し、伝えることができたか。	定期試験 文章表現、口頭表現 授業内で行う小テスト
③主体的に学習に取り組む態度	・ワーク等の副教材などを工夫して学習に有効活用できているか。 ・学習によってどのような変容が見られたか。	学習活動全般 学習の振り返りや提出物など

(2) 観点と評価の関係

			評価
A	A	A	5
A	A	B	4
A	B	B	3
A	A	C	
A	B	C	
B	B	B	
B	B	C	
A	C	C	2
B	C	C	
C	C	C	1

<評価の注意事項>

国語では、話す・聞く・読む・書く4つの技能と授業に取り組む姿勢を総合的に評価するため、定期試験だけ努力すればいいというわけではありません。

つまり定期試験で満点を取り「知識・技能」・「思考・判断・表現」がともにA評価であっても、自己評価シートや提出物など「主体的に学習に取り組む態度」がBまたはCの場合、評価が「5」にはならないということです。定期試験以外の評価が重要であるという認識をしっかりとって日頃から学習に打ち込みましょう。

4. 教科に関するアドバイス

国語はすべての教科・実生活の土台にあたる教科です。日々の生活の中で日本語に触れない日はないと思います。国語の力を伸ばすためには、常に自分の考えを持つことが大切です。そのためには話をしっかり聞く「聞く力」、相手の意図を汲み取る「読む力」が必要になります。また、自分の考えを持っていても、伝わらなければもったいないです。聞き手にわかりやすく伝えるためには、語彙を豊かにし、より良い言葉を選択する「話す力」が必要です。朝読書も、単語の意味をすばやく理解する練習になります。情景や登場人物の心情を意識して文章を読むことで、読解力の向上に繋がります。使える言葉＝語彙を増やしていきましょう。